

【平成29年度事業活動方針(基本的な考え方)】25%削減目標に向けて

1. 平成28年度は情報収集に重きを置いたが平成29年度は具体的な実践にシフトする
2. アンケート、自治会懇談会等から入手した情報に基づき現実的に可能なものから実践していく
3. フェイスツーフェイスを基本とした啓発活動を実践する

平成29年度の活動計画案（アンケートに基づいて具体的にどのような活動をするか。）

氏名 _____ メンバー提出分まとめ

*アンケートの自由意見が多かった項目ごとに、来年度の活動計画として案のある方は記入してください。
*項目が無い場合は、その他の欄に具体的に記入してください。

①分別が難しい(特にプラスチック製容器包装・ミックスペーパー)	別紙1
②資源ごみとして出したものは、正しくリサイクルされているのか?	別紙2
③分別やごみ減量の必要性について、何度もPRすべきである。	別紙3
④有料化による収入の使い道を知らせてほしい。	別紙4
⑤自治会に加入していない単身者向けのアパートなどは、正しくごみが出されていない。	別紙5
⑥家具や子ども服のリユースシステムがあればよい。	別紙6
⑦生ごみ処理機についてもっとPRしてほしい。	別紙7
⑧その他(_____)	別紙8

※提出期限 平成29年2月5日(日) FAX 0743-75-8125 E-mail:kankyohozen@city.ikoma.lg.jp

①分別が難しい(特にプラスチック製容器包装・ミックスペーパー)

これまで自治会懇談会で出た疑問点についてはある程度共通しているので、整理して分かりやすいパンフレット等を作り、今後の懇談会やイベント等で啓発する。

自治会で開催しているごみ会議で出た質問を表にしてもっと分かりやすい分別表を作る。

会議の重要なテーマと思う。「容器包装」も難しい。全てのプラスチックに以降出来ないか?!

私は空き箱に、プラ・ペーパーと書いて入れ物を用意して分別しています。
 どんどん入れたくなるような仕掛けが必要であると思います。
 以前から言っているように、シールのような物が有ればきっかけになると思います。
 モデル事業の時は大変好評でした。

小、中学校での分別講座をしていき、子どもから家族への啓発を進めるべき

・プラスチック容器包装・ミックスペーパーに特化したわかりやすい冊子の作成。
 (生駒市衛生社さんが作成した冊子をベースに追廃し、ごみ減量市民会議として発行する。)
 ・広報誌「いこまち」にごみ減量コーナーを1年間継続して設け市民に啓発する。

分別に関して市民からの問い合わせ内容を整理し一覧表にして自治会等に配付する。分別方法が分からないので「分別が面倒」と言っている人の解消に役立つ。(使い切ったマヨネーズ入れ、食用油入れ、詰め替え用のシャンプー入れはプラごみとして出せるのか? 使い切った洗剤箱はミックスペーパーとして出せるのか? 不要の歯ブラシ、使い切った歯磨き入れの処理方法は?)

ごみ減量化についての自治会への説明会で、生駒市衛生社の藤中さんの説明を聞かれた人たちは概ね納得されたようであったので、説明の機会を増やすとともに、説明を聞いて納得された方々に末端への説明をお願いする行動が必要。例えば、元気な高齢者を「ごみ減量支援隊」(仮称)のような組織を作り、協力者を募って説明することなど。

具体的分別な方法を何回も周知する必要がある。
 広報で毎回1ページを割いて行う。

分別説明冊子
 広報・自治会回覧などで特集(継続)
 自治会・グループへの講座
 分かりにくい内容はどのようなことか情報収集

現在ごみガイドブックが作成されていると思いますが、ごみの種類別にもっと細かく冊子を作る(案)

ごみの分類や出し方は非常に複雑化している。アンケートで意見が多かったというのは、ごみ関係の知識が少ない方が多いと思う。一部の方は、簡単なこととして理解しているが、興味などの度合いによって知識不足の方が多いは事実である。知らない人が勉強不足だと指摘するのではなく、排出されるごみの種類単位でフロー図で出し方を説明すれば分かりやすいと思う。

計画案

・現在の「ごみガイドブック」を基本に分別が難しいものの補助チラシ・パンフレット等を作成する。

②資源ごみとして出したものは、正しくリサイクルされているのか？

例えば、夏休み等に親子で参加してもらえるような「資源ごみの行方を見に行こうツアー」を実施し、市の広報で取り上げてもらう。

広報にリサイクルのルートに記載する。ムダでも回覧する。

まとめて広報を・・・

広報上でリサイクルに関する特集記事を企画し、写真、グラフ化してどのように利用されているのかをPRする。

みんな疑問に思うことです。見学はもちろん必要で、夏休み等の時に「子ども探検隊」を募集してツアーをしたら良いと思います。その活動を広報したりして子どもの力を活用することが良いと思います。子ども達のキエーロ報告は素晴らしく良かった。

リレーセンターやリサイクルの状況、各イベントなどの紹介を広報で。またリレーセンターや衛生社の会社見学などを広報で公募する

- ・広報誌「いこまち」にごみ減量コーナーを設け情報を市民に伝える。
- ・ごみ処理施設への見学会の実施。

生駒市では年間資源化可能物をどのくらい収集し、何処でどのような物にどのくらい資源化したかを数字で開示する。

説明の機会を増やして、実際にリサイクルの仕組みがどうなっているか？を知って貰うことが必要。そのためにはリサイクル施設の見学も必要では？特にごみ減量に懐疑的な人をリサイクルの現場に案内することも必要。

リサイクル実績(コスト面を含めて)を半年毎に公表する。

分別～再商品化までの各フロー図を作る
リサイクル品の実例
再商品化施設の見学会(リバースなど)

リサイクル工程を映像で録画し、各自治体に配布する(案)

本当に資源ごみに活用されているかの工場ツアーを企画するのもいいかもしれない。参加しなくても、企画すれば、資源化されているように思うのではないか。ただし、種類毎の資源の収集量と資源化された量の数値を出すようにすれば、説得力が向上する。

計画案

- ・正しくリサイクルされていることが分かるフローを掲載したチラシを作成する。
- ・小学生とその保護者を対象として、リサイクル施設の見学ツアーを実施する。

③分別やごみ減量の必要性について、何度もPRすべきである。

PRする機会や場所、対象者によって効率的なPR方法を考えて実施する。

自治会やサロン等に呼びかけてくる館等の見学会をする。

まとめて広報を・・

広報上でリサイクルに関する特集記事を企画し、写真、グラフ化してどのように利用されているのかをPRする。

PRをしても、関心の有る方・実践している方は見るが、関心の無い方には効果無し。小さなエリア(自治会単位)でPR・啓発する必要あり。

その通りだと思います

- ・小グループでの懇談会の実施。
- ・自治会との懇談会の継続
- ・市民団体(ボランティア団体)との懇談会の実施
- ・広報誌「いこまち」にごみ減量コーナーを1年間継続して設け市民に啓発する。
- ・環境フェスティバル、いこま博などのイベント会場で啓発活動を行う
- ・6月の環境月間でチラシ配布などの啓発活動を実施(駅前などで)。
- ・活動情報の切れ目ない発信(生駒市ホームページ・広報「いこまち」・フェースブックなど)。

分別することは再資源化することであるので、分別されたものが役立っていることを分かりやすく図解して知らせる。(上記と関連している)

回数だけではなく、どんな手段で周知させるか？工夫が必要。自分が興味を持った内容は広報で読むが、興味を持たないところは無視。その挙句、知らないことを周知させる努力をしていないと非難する人が多い。知って貰う、理解して貰う手段を考えて見たい。

具体的分別な方法を何度も周知する必要がある。

広報で毎回1ページを割いて行う。

リサイクルにとっての分別の必要性

ごみ減量によるメリット現在、市の方からも発信している内容になる

広報・自治会回覧・各種イベントでの啓発

1年間毎月広報誌に掲載し市民に周知して頂く(案)

標記の内容の必要性は、市民として理解しているが、出し方や分別の仕方が複雑化していることからであると考えてるので、上記に記入しているように分かりやすくフロー図で表示するしかないと思う。PRよりも市民の意識が変わらない限り、無理と感じる。

計画案

- ・自治会にこだわらず、家庭教育学級・寿大学・当会議メンバー等の団体との懇談会を実施する。
- ・年間計画を定めて広報誌への掲載、自治会内の回覧を実施する。

④有料化による収入の使い道を知らせてほしい。

市が広報に努力すべき。

資源ごみ袋を配布・資源ごみ集積所増の為のからすいけいけ等の設置・個人収集の検討・有料ごみ袋値下げ

行政の対応すべきこと。

既に広報等で開示しているが、機会のある都度PRを行う必要がある。

皆の努力で収入となった物なので、市民が目に見える使い方、納得させることが必要。基金もありですが…。無償のごみ袋の配付や、活動した方にごみ袋を渡す等。

広報でお知らせ。また駅のコンコースのテレビを使う

・広報誌「いこまち」にごみ減量コーナーを設け情報を市民に伝える。

年度毎、年間収入・支出の項目別金額を開示する。

広報で公表していると言うだけでは不満を持つ人が出ると思う。知って貰う努力が必要。知って貰う、理解して貰う手段を考えて見たい。

詳細に直ちに公表すべきである。

広報誌で掲載し市民に周知して頂く(案)

有料化での収入を市民に還元することを求めている(ように感じる)ので、問題となっている生ごみ処理に係る費用が嵩んでいることを前に出すような周知をすることが望ましい。

計画案

・決算終了後、直ちに広報等で周知する。

⑤自治会に加入していない単身者向けのアパートなどは、正しくごみが出されていない。

通常の啓発文書をポスティングしても見てもらえない可能性がある。試しにどこかのアパートをモデルケースにして、例えば、正しくごみ出しがされずに困った状況になっている当該のごみ集積所の状況がビジュアルで分かるようなものも加えた啓発文書を配布して効果を見る。機会があれば、居住者に話を聞く。

オーナー・管理会社にごみの分別・有料袋の使用を徹底指導する。

市から指導する。チラシを配布する。

問題だが、市民会議で対応すべきか疑問。

建物所有者、管理人(業者)等からの指導を根気よく行うしかない。抜本的な改善策はない。

若い人でも出しやすい方法を考えるべき。出来ないでは無く出来るように歩み寄り。生活のリズムが違う。各アパート単位に入れ物を作り、いつでも出せるようにする。

単身者、外国人に対応したものを自治会に配布

生駒市のごみの正しい出し方パンフレットを建物の管理会社や建物所有者、あるいは居住者が集団の外国人労働者であれば雇用主に配布、周知してもらう。

多分広報など読んでいないし、自治会に入っていないことも想定されるので、難しい。

基本的分別を促進させるには、PRしかない。有料でも仕方がないと考え(分別はめんどろ・時間が無い)て出す単身者に細かい分別を要求するのは無理かもしれない。

対象となるマンションへの分別などの啓発ツールをポスティング

生駒市内のコンビニエンスストアやスーパーに協力して頂き分別の仕方の冊子を置かせてもらう(案)

単身者は少量で多種多様なごみが出るが、これを分別し、種類毎に7^{リットル}袋に入れるのは不経済であると感じているように思える。入居者の分担金で専用のボックスを設置すれば、分別に協力されるのではないか。ただし、オーナーの理解が必要であるが。

計画案

・不適正なごみ排出は、市からの指導で対応する。

⑥家具や子ども服のリユースシステムがあればよい。

今、存在するリユースに関する機会の情報をもっと広報する。リユースシステムのアイデアを市民から募集する。市のHPの不用品交換のページをスマホアプリ等の活用で利用しやすくすることができないか。

まとめて広報を・・

今後の課題。ニーズと費用について検討要。

市で施設を作り、常時販売するようになれば皆さん喜ばれると思います。人が集まる所にもなり、市民が運営していく環境システムの拠点作りが必要。おもちゃの修理・リサイクルの販売・手作り品の作成・古布でさおり織り等

育児用品のリユースだけでなく、自由に利用できる資源ごみの引き取り、交換場所などを設置する。営利の業者や転売対策として広報に利用券(期間指定など)をつける。(ぶつぶつ交換祭みたいなのを企画する)

・市で運営するのは課題が多いので、民間業者と委託契約をできないか。

市のホームページで掲載。提供者と利用者の橋渡し、運営はNPOあるいはシルバー人材センターが考えられる。

生駒市がリレーセンターなどで行っている活動や自治会で行っている活動を知って貰う、おばちゃんたちに説明して協力して貰うのが一番と思います。こんな活動をしている人は沢山います。ボランティア(ららぽーと)に登録している団体に協力を求めてもかなり浸透すると思います。

家具の運搬や場所の点で問題が多い。広報で交換情報コーナーを設ける方法が考えられる。

環境フェスティバルでリレーセンターが行っている内容のアピール
実施する回数を増やす(現在の頻度は?)

1ヶ月か2ヶ月に1度、行政機関の施設でリユース市(持ち込み等)を開催する(案)

家具や古着の回収に向けた助成制度の創設(リサイクル品として、改修して販売する。売上金は、助成金や家具などの改修費用に充当)を行い、回収拠点はリレーセンターに設置する。

計画案

市での取り組み

- ・市ホームページ 不用品交換コーナー開設
- ・環境フリーマーケット 年4回
- ・リレーセンターでのリユース可能な大型ごみの無料収集 月1回(平成29年4月からは週1回)
- ・リユース市 年1回
- ・もったいない食器市 月3回
- ・みっきランドでの不用品交換コーナー開設

⑦生ごみ処理機についてもっとPRしてほしい。

キエーロの特性と効率的な使用法を分かりやすく伝え、納得してもらって使用してもらう。使用后、一定期間が過ぎたら連絡して、使用状況について聞き、不都合があれば相談に乗るようなシステムを作る。

PRするのは良いが押し付けにならないようにしてほしい。

まとめて広報を・・

自分で使用してみて、普通の家庭で使用するのには難しいと感じる(冬季は分解に時間がかかりすぎるし、投入できる生ごみの種類も限定される)。現在行っているような、自治会での説明会等で、環境問題に関心のある人に対してPRするのが妥当ではないか？対面でのPRでないと思う。

全世帯の少数の方々が購入されても減量には程遠い気がする。買っても続かない。無駄なものは買わない・捨てない・作りすぎない・食べきるなど啓発ばかりではなくエコクッキングの様な環境教育が必要。今、核家族で親から子に伝える機会が皆無。基本を知らない大人が多いのが現実。作ってみる・体験が必要に迫られている。

全くその通り。広報、ネットで啓発したい

・広報誌「いこまち」にごみ減量コーナーを1年間継続して設け市民に啓発する
(キエーロの使用経験やごみ減量の工夫などを市民に登場してもらい発信する)

生ごみ処理機の補助の拡大の検討および販売元、メリット、デメリット(注意点)等について広報市等で紹介する。各自治会へ出かけての説明、駅前広場、図書館等での展示・説明が効果があると思う。

広報に掲載したり、展示しているだけでは無理。これももう口コミが必要な段階ではないでしょうか？実際に使っている現場を見て貰うことが必要。知っても実際に使って貰えるかな？疑問。

キエーロは設置場所が必要なもので、誰でもというわけにはいかないが、補助対象製品を今まで以上にPRする。(勿論補助額も)

公共施設などでの展示(実物又はパネル)

広報・自治会回覧・各種イベントでの啓発

1年間毎月広報誌に掲載し市民に周知して頂く(案)

キエーロは材料から積算すれば、非常に高い商品であるため、購入者は少ないように思う。波板と板・角材があれば簡単に作成できるが、一般家庭では作成されないことから、安価な材料(廃材を活用)を加工し、組立キットで販売すれば、移動も簡単で、活用されるのではないか。ただし、実用新案登録の法的手続きは必要ですが。

計画面

- ・キエーロにターゲットを絞ってPRを実施する。
- ・専門部隊の設置を検討する。
- ・製作講座と合わせ使用方法等の講習会を実施する。
- ・キエーロ購入者へのフォローを実施する。

⑧その他()

当自治会は、平成28年度8月定例会時にキエーロ各家庭普及のため自治会全会員に班長を通じて回覧を行った。平成29年度目標として各班に推進を行う。

大型ごみ等、月2～3回、日にち又は曜日を決めて収集する。
 プラごみ等資源ごみ集積所の増をする。高齢者になり遠く迄重たいごみ袋を持っていくのは苦痛。

- 1.自治会との懇談会を市の出前講座のひとつとして確立させる。
- 2.ごみ有料化について以前からのトラウマを感じる。有料化の成果などは12月20日の市長発表で完了。収益の用途などは市民会議のテーマとすべきではない。
- 3.市民会議パンフレット活動内容1から6のうち、1は完了、3は削除、2・4・6に集中したい。特に4と6を持って2や出前講座・広報活動を行うのが良い。
- 4.ごみ有料化の文言にこの会議は左右されていない事明確に！！

思いつくままに雑感を記したのみで、具体策といえるものはありません。あまり早急に結果を求めるような活動は長続きしないと思います。地道に、根気よく啓発活動を続けるのがベターだと考えます。

アンケート結果を見ると、有料化だけではごみ減量は困難であり、今後やさしい分別情報や、市民がごみを出しやすい環境整備、切れ目ない情報発信などの啓発活動が大切である。

・上記内容をごみ減量市民会議として活動したい

<行政に検討して頂きたい項目>

- ・資源ごみ集積場所の増加
- ・燃えないゴミ(45L袋に入る物)はびん・缶 収集日に出せるようにできないか
- ・傘に限定したごみ袋又はシールの作成(安価になるように)
- ・剪定枝の資源化

1. 現行の据え置き型キエーロの半分程度の大きさのものがあれば狭い土地でも邪魔になりにくく、また移動が簡単であるため利用する家庭が増えると思う。
2. 我々がミックスペーパーと呼んでいるが、市民には何を指しているのか分かにくいのではないかと。ごみガイドブック(平成27年11月発行)の周知が必要。また、チラシ、包装紙、紙箱、封筒など別々に分けて出さなくてもよいなど出し方の周知が必要と思う。
3. 環境に関するイベントなどのお知らせは、自治会館、体育館、図書館など市関連の施設にも掲示する。ラックに入れるだけでなく、入り口にお知らせ板でのお知らせを依頼する。また、幼稚園では保護者向けの園だよりを発行し「環境関連のお知らせ」枠を持っている。タイミングが合えば掲載してもらうことが可能と思う。

1.有料化によって得られた収入をごみ関係費以外に使用しているのは、当初の約束と違うので、ごみ袋代を安くする等に変更すべきである。減量は勿論必要であるが、コスト面の考慮し費用対効果を検証する必要がある。

2.有料化はごみ減量を目的に実施されたのであるから、実施後の検証をし、市民に情報開示し、よりよい制度にすることが減量につながると思う。

アンケート・自治会懇談会で住民様の声がかかなり聴けていると思います

集めた内容に沿って返事を返していく必要があると思いますが、広報・自治会回覧などもとても重要ですが、見ていない人が多いのも事実です

会議立ち上げの時にも座長が言っていました、泥臭い作業になると思います、懇談会・講座などを継続していき、上記の項目に返答する場を作ると同時に次の課題が上がってくるので対応するという繰り返しになると思います

「十分に分別、余分な物は買わない」、「これ以上無理」などと熱心に取り組んでいる方が多い中、一部の方のみへの注意喚起やPRの促進を活発に実施するようとの意見が多くみられることから、問題は重量のある生ごみの処理対策に傾注すべきである。また、重量的には、チラシやパンフレット関係を資源回収に誘導するなど、第一弾として、重量ごみ対策を中心に講じないと数値目標に近づかない。

たけまるコンポに事業系の生ごみだけでなく、家庭系の生ごみを導入するシステムを早急に導入することにより、家庭ごみの収集量が少なくなる。今でも、完全に水切りがされていないように思うので、生ごみの蓋付き水切りバケツの導入(有料化による収入で賄う)を行えば、トン数が減少する。